



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

—令和元年度総集編—

特別企画

テーマ別運営事例集



公益財団法人

日本スポーツ協会

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについては以下から
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnssport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

特別企画

特集とは異なる視点から時流に沿ったテーマを設定し、皆様に役立つ情報を掲載しました。

第144号（令和元年5月20日発行）

～自立するクラブを目指して～

総合型地域スポーツクラブ「経営診断&相談会」

山形県教育委員会・

山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 2

第145号（令和元年7月22日発行）

「熱中症対策に取り組むクラブ」

NPO法人伊勢崎西部スポーツクラブ 9

第146号（令和元年9月20日発行）

「ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ」

NPO法人札幌オールカマースポーツ倶楽部 13

館林ジョイススポーツクラブ 17

第147号（令和元年11月20日発行）

「地域を元気にする取り組みを行うクラブ」

NPO法人ひのきスポーツクラブ 22

スポーツクラブ21わかさの 27

第148号（令和元年1月20日発行）

「サイクルスポーツを実施するクラブ」

大かえで倶楽部 33

Pegasusクラブ 38

特別企画

～自立するクラブを目指して～ 総合型地域スポーツクラブ「経営診断＆相談会」

山形県教育委員会・ 山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

総合型クラブの運営支援にあたっては、クラブが求める情報の内容のニーズを的確に把握し、その内容に適合する事例等の情報を提供することが重要になってきます。

そこで今回は、クラブの質的充実を目指して山形県内4地区で、山形県教育委員会と山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の共催により実施した「経営診断＆相談会」の取り組みを紹介します。

1 事業の狙いは、クラブ経営とクラブ運営の一層の充実と発展

本県の総合型地域スポーツクラブ（以下：総合型クラブ）の育成が始まり10数年が経過しました。現在、全市町村に総合型クラブが設置（35市町村に65クラブ）され、地域コミュニティーの核として、地域住民が主体となり各クラブの特色を出しながら活動を展開しています。

しかしながら、創設から10年以上経過した総合型クラブの中には、いまだ組織体制や財務基盤が脆弱（ぜいじゃく）な総合型クラブや、創設当初のスタッフの代替わりによりクラブ経営に危機感をもつ総合型クラブも見受けられます。また、少子高齢化社会の急激な進展に対応すべく、地域課題の解決を担う役割も求められる現状があります。

そこで、県内の総合型クラブが質的な充実を図り、継続的・安定的で持続可能な自立するクラブ経営とクラブ運営の一層の充実・発展を目指して、総合型クラブからのニーズに合った講師を招き、山形県教育委員会と山形県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の共催により、県内各地において「経営診断＆相談会」を開催しました。

2

県内6市町で展開 的確な講師招きクラブ経営を伝授

★経営診断&相談会in寒河江

期 日 平成30年6月5日(火) 於: 村山教育事務所 (参加者27名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団の連携」

講 師 NPO法人スポーツコミュニケーションかくだ クラブマネージャー 遠藤 良則 氏

趣 旨 当該地区の共通の悩みである、会員数の伸び悩みを解決するために、クラブ会員の増加の一方策として、スポーツ少年団との連携の視点からクラブの経営を振り返りました。



参加者の声

- スポーツ少年団を、クラブより上のレベルの受け入れ先として捉え、興味を持った子どもには積極的に入団を勧めている。このように、総合型クラブとスポーツ少年団の関係を明確にして、教室を運営している点が大変参考になった。
- クラブのミッション・ビジョンを持って運営することや地域の中でのクラブの位置付けなど、連携に至るまでのクラブ運営が大切であることが分かった。

★経営診断&相談会in山形

期 日 平成30年11月18日(日) 於: 山形ビッグウイング (参加者21名)

タイトル 「みんなの知恵がクラブを変える ～地域スポーツからコミュニティークラブへ～」

講 師 学校法人静岡国際言語学院 学院長 板垣 昌行 氏 (山形県長井市出身)

趣 旨 平成30年度「山形県総合型地域スポーツクラブマネージャー養成セミナー」の講師から、当該地区クラブのアンケート(①ミッション②ビジョン③クラブの特長④クラブの課題)を基に、経営を振り返りました。



参加者の声

- これからは地域コミュニティの活性化という点に着目してクラブを経営していきたい。公益性にプラスして収益性を高めることにも取り組んでいきたい。
- 『信用される者(クラブ)になる』ことが『クラブを豊かにしていく』ことにつながるということを学んだ。法人格を取得することのメリットがここにあると感じた。財源確保につなげたい。

★経営診断&相談会in新庄

期 日 平成30年12月1日(土) 於:新庄市民プラザ (参加者16名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブの安定経営」

講 師 一般社団法人地域スポーツシステム 榎 敏弘 氏

趣 旨 平成30年度「山形県総合型地域スポーツクラブサミットin山形」の講師を迎え、クラブの安定経営につながるクラブが抱える課題から経営を振り返りました。



参加者の声

- 講師の先生が実際にスポーツクラブとシステム研究所を経営していることで、私たちが経営に関して求めていることに的確にストレートに指導をいただいた。今後、クラブを運営し持続していくための方向性が見えたような気がした。
- 大変充実した研修内容だった。『経営とは何か』と改めて考える機会をいただき、経営していく上で大変勉強になった。また、当日の研修機の配置だけでなく参加者同士がアウトプットできる時間を設けるなど、たくさんの工夫があり、楽しく研修に参加することができた。

★経営診断＆相談会in長井

期 日 平成31年2月22日(金) 於:タスパークホテル (参加者21名)

タイトル 「置賜地区の持続可能な総合型地域スポーツクラブの在り方」

講 師 西根ときめきスポーツクラブ 会長 五十嵐 英治 氏

NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏

趣 旨 近年、人口減少・少子高齢化の加速化に伴い、住民の健康寿命の延伸や仲間づくりとしての居場所的な役割と住民に寄り添い地域づくりの一端を担うという観点から、経営を振り返りました。



参加者の声

- クラブの事務所を持っていないにも関わらず、地域に根差したスポーツクラブとして文部科学大臣表彰を受賞した話から、今後、公民館やコミュニティーセンターと連携・融合を図っていく前向きな取り組みは大変参考になった。
- ワークショップでは、自分のクラブの課題から、『理想、現実、それはなぜ?』に加えて、『だからどうすればいい?』ということまで考えるいい機会になった。
- クラブ経営に必要な財源を確保できない理由は、『お金が回ってこないから』ではなく、『なぜお金が回ってこないのか』『どこにお金があるのか』まで踏み込んで考えていきたい。

★経営診断&相談会in酒田

期 日 平成31年3月1日(金) 於:酒田玉姫殿 (参加者27名)

タイトル 「積極的に運営にかかわることができる人材のを見つけ方、育て方」
「地域で支える中学校運動部活動の在り方」

講 師 NPO法人 スポネット弘前(青森県) 理事長 鹿内 葵 氏
謹教スポーツクラブ(福島県) 会長代理 坂内 喜恵 氏

趣 旨 当該地区の一番の課題である「人材の発掘・育成」と今後のクラブ経営で注目されている「運動部活動との連携」という観点から、経営を振り返りました。



参加者の声

- 自分が携わっているスポーツクラブの課題解決のためのヒントを得たいと思ってこの研修に臨んだ。いくつかの重要なキーワードをいただき、大変参考になった。
- ビジョンの共有、コミュニケーションの大切さ、部活動と総合型クラブの関係など学ぶことが多く、参加して良かった。クラブとの関わりを考える良いきっかけとなった。

★経営診断&相談会in最上

期 日 平成31年3月16日(土) 於:山屋セミナーハウス (参加者13名)

タイトル 「総合型地域スポーツクラブの安定経営」

講 師 さかがわ税理士・社労士・行政書士事務所 所長 坂川 達志 氏(新庄市在住)

趣 旨 新年度より法人格を取得するクラブや指定管理を受けるクラブなどが経営に関わって得た多くの課題(疑問)について、地元在住の税理士・社労士から学んだり相談したりしながら経営を振り返りました。



参加者の声

- 経営のイロハを分かりやすく学ばせていただいた。自身のクラブに当てはめて再度経営について考えていきたい。各クラブで会計処理及び経営に関して会計士の立場・視点から率直な意見をいただき大変良かった。
- 今回のクラブに足りないものとしては、経営的な視点で事業が展開していくことだと思う。今後もこのような勉強会を、できればシリーズで開催してもらえると有り難い。

3 事業実施後のクラブアドバイザー所感

■ 地区の実態に合わせ趣旨を設定

県内4地区の実態に合わせて、各地区が抱える課題解決に役立てようと設定した趣旨に対して、適切かつ的確に応じられる講師を迎えて経営診断を実施できたことは、今後のクラブ経営の新たな原動力となりました。

■ 好評だった講師を選定

講師選定にあたっては、県内で開催された研修会等で好評だった講師に依頼できたことが、本研修会開催の鍵を握りました。

■ 地域に密着した課題の解決を

今後、本研修会で学んだ内容を基に、クラブが自立し安定した経営を目指すために、現在のスポーツ・文化的活動を通したコミュニティ形成機能を十分に発揮し、地域に密着した課題（人口減少・少子高齢化・住民の健康寿命の延伸・お隣同士の仲間づくり等）の解決に取り組むきっかけとなってほしいと願っています。

■これまで以上に地域や行政との関わりを

また、地元の総合型クラブが、地域の住民に寄り添い地域づくりの一端を担いながら、持続可能なクラブにしていくために、本研修会を契機に、これまで以上に地域や行政との関わりを持って社会的役割を果たしていくか注目していきたいです。

■行政・総合型クラブ・スポーツ団体が同じテーブルで課題解決を

そこで、「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018(日本スポーツ協会)」の中で、総合型クラブ育成の基本理念となる、ソーシャル・ガバナンス体制(地域社会の様々な問題に対して、公的機関と住民組織等が協働で解決に向かうメカニズム)のシステムを大きく構築していただきたい。それと併せ、本研修会に参加した参加者同士のコミュニケーションとつながりを活用して、行政と総合型クラブに加えてスポーツ関係団体が同じテーブルで課題解決に向かう手立てを話し合う機会を、各クラブ経営の柱に位置付け実行されていくことを願っています。

(公益財団法人山形県スポーツ協会 クラブアドバイザー 榎本慎一)



特別企画

熱中症対策に取り組むクラブ



NPO法人伊勢崎西部スポーツクラブ ＜群馬県伊勢崎市＞



総合型クラブの運営においては、安全面に配慮した事業の実施が必要となります。

そこで今回は、総合型クラブの活動における熱中症予防について、スポーツ教室・大会等を運営する際に対策を行っているクラブの取り組みを紹介します。



1 クラブ概要

平成18年度、現理事長が伊勢崎市主催の市民会議「スポーツで元気なまちづくり」に参加、「総合型地域スポーツクラブを伊勢崎市に!」と提言し、平成19年度より文部科学省の補助金を活用し任意団体として設立されました。

特定のスポーツ施設ではなく、公園、河川、公共施設等、地域の資源を活用し、誰もが気軽に一人でも取り組める種目を中心に活動しています。個人の体力増進・維持はもとより「スポーツの見えるまちづくり」により、行き交う人々の新たな交流の機会を増やすことや、スポーツ活動による小さな感動の共有による「スポーツで元気なまちづくり」の実現を目指して活動しています。

現在、公園・サイクリングロードにおいてランニング（かけっこ）、ノルディックウォーキング、サイクリングを、公園に隣接する河川においてカヌースラロームを、公共施設においてはダンベル体操、ストレッチ等を定期的実施中です。

また、市内の世界遺産「田島弥平旧宅」や「焼きまんじゅう」「渡し舟」等の地域資源を活用した「マラニック（マラソンとピクニックの造語）大会」、初心者でも楽しめる「カヌースラローム大会」、障害者から健常者・子供から高齢者まで、みんなが車いすに乗って競技を楽しむ「みんなのバリアフリー運動会」等のイベントを実施しています。



2 有数の猛暑地域→熱中症対策 屋外種目でも暑さと向き合って活動

伊勢崎市は毎年夏になると38℃を超える日が数日続くこともある、日本でも有数の暑い地域です。そのような気象条件の地においても、会員サービスの提供として、屋外種目（ランニング、カヌー、ノルディックウォーキング等）も活動をする必要があります。

活動開始当初、夏季の午前の活動は早朝開催を検討しましたが、会員の皆さんの生活のリズムを乱すことにも繋がりがねず、さらには猛暑の中でも日常生活を送る必要があるので、正面から暑さに向き合いながら活動することとしました。

3 指導者は熱中症予防を学び、 受講者に随時注意事項を伝達

当クラブの屋内活動種目の会場にはエアコンが設置されていますが、屋外活動種目と同様、指導者による啓蒙(下記7項目)をしています。屋外活動種目の指導者は、日本スポーツ協会公認資格養成講習会における講義を受講するだけでなく、同協会の「熱中症予防ガイドブック」、環境省の「夏季のイベントにおける熱中症予防ガイドライン2018」等を参考にし、熱中症に対する知識(メカニズム・応急処置)を身に付け、自らの基準で行動しないよう心掛けています。

★7つの注意事項★

【参加者に対しては、事前の準備として、以下の7つの注意事項を伝えていきます】
(梅雨入りの頃から、各定期活動時に指導者から参加者の皆さんに繰り返し口頭で伝えていきます)

- 梅雨明け前後の気温急上昇を前に疲労を一度抜いておく
- 梅雨明けの気温上昇とともに身体を慣らしながら活動量・強度を上げていく
- 梅雨明け前でも、急な気温上昇の日は、まだ身体が暑さに慣れていないため熱中症のリスクが高いことを認識する
- 梅雨の晴れ間の多少気温が上がった時に、緩やかな運動をすることで、汗をかくことに慣れておく
- 高温に対する耐性は個人差が大きく、また、重篤になる前には必ず自覚症状があるので、各々がその異変を見逃さず、異変を感じたら積極的に活動を休止する
- 活動を休止する際は、周りの人を巻き込み、そのような人を見たら指導者が来るまで積極的に巻き込まれる
- なるべくフィット感の緩い服装、濃い色よりも白っぽい服装を選ぶ

高温時の活動現場においては熱中症対策飲料、氷水、タオル等を準備、休憩頻度・時間を増やすとともに、木陰、川沿い等、なるべく涼を感じる場所で活動し、参加者が自然と暑い中でもそのような場所は涼しいという感覚を身に付け、日常生活においてもその知識が活用できるよう促しています。

4 会員個々が涼をとる工夫 イベント時の救急・救護体制の必要性も共有

日常生活において、涼をとる工夫（窓を開ける、日陰や川沿いを選ぶ）が案外知られていませんでしたが、徐々に各個人が自ら工夫するようになったことが、日々の会話から感じられます。

また、活動時には会員一人ひとりが自分のことのみではなく、お互いに気を配り合う雰囲気が醸成されています。

さらには、イベントにおいて、医療機関、消防等と連携した救急対策等を、検討する雰囲気がクラブスタッフ間に高まってきています。過日、群馬県主催の「"ランニングイベントの救護体制"勉強会」に複数のスタッフと共に参加し、熱中症対策に限らず、イベント時に救護体制を検討する必要性を共有しました。

5 活動休止よりも、安全を担保し 猛暑に対応できる体づくりを

ここ伊勢崎市では毎年38℃を超える猛暑日が続きます。その中でも日々生活を送らなければなりませんし、屋外で仕事を続けなければならない方々も居ます。また来年の東京オリンピックも然りで、猛暑の環境においてもハイパフォーマンスを要求されることもあるでしょう。

そのような中、熱中症対策として、単に数値的に一律に活動を休止するのではなく、安全は担保した上で、猛暑にも適応できる身体をつくる必要もあると考えています。

そのような人を育むために、どのような活動プログラムが適切なのか、「暑いからやめる」ではなく、別の方策を考えなければなりません。そのためにも全国のスポーツクラブ、各競技団体の取り組みを共有し、周知していくことも今後必要だと考えています。

（伊勢崎西部スポーツクラブ 理事長 平林知巳）

クラブプロフィール

設立年月日 平成21年2月28日(任意団体) 平成24年12月20日(法人格取得)

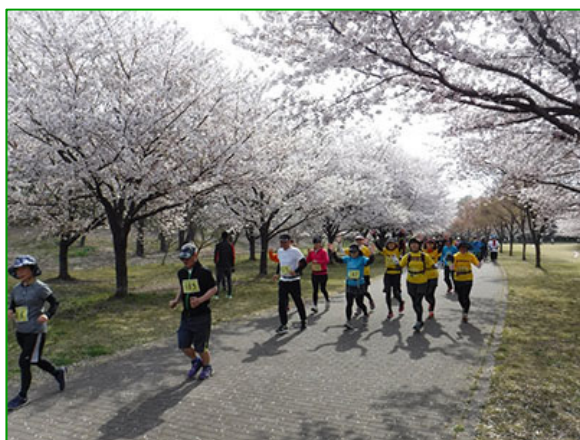
所在地 群馬県伊勢崎市西部地区

運 営 会員数309名(平成31年3月現在)、予算規模810万円(2019年度)

有給職員 2名

特 徴 「もっと気軽にEnjoy Sports!」を合言葉に、誰もが気軽にスポーツ参加の第一歩を踏み出せるよう、公園、河川、公共施設等においてランニング(かけっこ)、カヌー、ダンベル体操等を実施。運動能力に関係なく、小学生から高齢者までが参加しています。
また、伊勢崎市からウォーキング教室を受託、毎月1回、6会場で同時開催するなど、他の活動にもスタッフを派遣、様々なフィールドで「スポーツで元気なまちづくり」をサポートしています。

連絡先 〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町3009-2
TEL 080-4887-9629(火曜～金曜14:00～19:00)
E-Mail isesakiseibusc@bk2.so-net.ne.jp
URL <https://wind.ap.teacup.com/seibusports/>





特別企画

ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ



NPO法人札幌オールカマースポーツ倶楽部 ＜北海道札幌市＞



いよいよ4年に1度のラグビーワールドカップが日本で開幕します！

そこで、今回は、ラグビーに関するプログラムを行うクラブの取り組みを紹介します。



1 クラブ概要

40歳以上のラグビー愛好者が集まり1963年に結成された「札幌有惑クラブ」は、札幌市内全域を拠点に活動してきました。後に、自らが楽しむだけではなく、子どもたちの健全育成にも取り組もうと、1981年に「札幌少年ラグビースクール」の開校へと広がっていきます。

活動が続ける際、最も苦労したのは練習場所の確保です。そこで当時、中学校建設予定地を使用させてほしいと、担当の市土地開発公社に相談したところ、スポーツ課に繋げてもらい、管理等も含め一団体に使用を許可するためには、任意団体では難しいとの指摘を受けました。また、「今後の活動を社会貢献などにも広げるためにも、総合型地域スポーツクラブという形態を導入し、法人格取得も含め検討してはどうか」とアドバイス頂いたのがクラブ設立のきっかけとなりました。

現在は、札幌少年ラグビースクール、札幌有惑クラブの他にも女子ラグビーチームやフラグフットボールチームを有する他、ヨガ教室やエンジョイランニング記録会などラグビー以外の種目にも力を入れて取り組んでいます。



2 小学2年生以下が「タグラグビー」、 同3年生以上はラグビーに親しむ

ラグビーの普及を目的の一つとして取り組んでいる「札幌少年ラグビースクール」は、札幌市内全域の子どもたちを対象に募集をしています。大型スーパーのパフレットコーナーでスクールの存在を周知し、口コミでも広がりを見せ、現在は5歳から中学3年生までの子どもたち48名が週1回元気に活動しています。

小学2年生以下がタグラグビー、小学3年生以上中学3年生までがラグビーに取り組んでいます。指導に当たっているのは、スクールに在籍する子どもの保護者約15人です。子どもが卒業してもスクールに残っていただける方もいます。

先日行われた北海道内の全スクール・札幌地区中学校が参加した大会では中学生チーム、小学低学年チームが優勝するなど、着実に力もつけており、スクールを卒業してからもラグビーを続ける子が多くなりました。

また、新学習指導要領に掲載されている「フラッグフットボール」にも活動を広げ、練習会場を提供していただいている、北海道科学大学アメリカンフットボール部の外部コーチと連携し、普及活動に取り組んでいます。

フラッグフットボール

フラッグフットボールは、アメリカンフットボールが起源になって生まれたスポーツ。

タックルの代わりにプレーヤーの両腰につけたフラッグを取ります。

(公益財団法人 日本フラッグフットボール協会ホームページより引用)

高齢者向け「Over60大会」も開催

毎年、北海道ラグビーフットボール協会が主催する北海道ラグビーフェスティバルにおいて、すき間時間を活用し「Over60大会」を開催しています。高齢のカテゴリーの方たちが思う存分プレーできる場を設定したいとの思いから、当倶楽部が協会に依頼し、7年前からこの大会運営を担当しています。札幌、小樽だけでなく、旭川や帯広からも高齢プレーヤーが集まり、交流を深めながら生涯スポーツとしてのラグビーゲームを楽しんでいます。



交流会



オーバー60

3 年2回の体験会でスクール生を確保 トップ選手も輩出

毎年春・秋に「札幌少年ラグビースクール」のPRを目的とした体験会を行っており、一度体験会に参加した子どもたちは、ほぼ全員がスクールに加入しています。中学3年生まで続ける子が多く、OBの中には道内屈指の名門校・札幌山の手高校から明治大学を経て、トップリーガーとなった舟橋諒将さん(ヤマハ発動機ジュビロ)もいます。

高齢者からも好評のラグビー大会

また、「Over60大会」に参加した選手からは、「70代、80代になってもラグビーを続けたい。この大会はありがたいし、もっと回数を増やしてほしい」という声を頂いています



札幌少年ラグビースクール

4 運営スタッフと活動場所の確保が課題

少年ラグビースクールのコーチを務めてくださる保護者が指導者資格を取って指導に当たっており、協力者が増えている実感はあるものの、倶楽部全体の「運営スタッフ確保」には苦慮しています。それぞれが仕事を抱えているため、これ以上教室などの事業を増やすことは厳しく、また、倶楽部創設時より課題となっている「活動場所の確保」についても、厳しい状況が続いています。

打開策として「認定NPO法人」申請を視野

これらを解決する一歩として、現在「認定NPO法人」の申請を視野に入れており、地域の他団体とも協力し、現在札幌市が建設計画の中の新琴似市民運動広場の指定管理業務受託を目指し、課題解決とともに倶楽部の活動拡充へ向けて取り組んでいます。

また、石狩管内の総合型地域スポーツクラブと連携し、互いの得意分野で指導者を派遣し合うなど、同じ悩みを抱えている同士で、支え合える仕組みができれば良いなと考えています。

(北海道スポーツ協会 クラブアドバイザー 熊耳雅美)

■鈴木浩二・札幌オールカマースポーツ倶楽部事務局長代行の話

W杯日本開催を機にタグラグビーから普及を

「札幌市内で子どもたちがラグビーに触れる機会は、まだまだ数少ないのが現状です。2019年ラグビーワールドカップ(W杯)日本開催を機に多くのメディアが宣伝し、開催都市では体験会等も多く開催されます。子どもたちが関心を持った今、各クラブのスポーツ教室の1種目としてコンタクトプレーのないタグラグビーから採用していただけると普及の効果が大きいと考えております」

クラブ プロフィール

設立年月日 平成25年2月24日(平成27年11月NPO法人設立)

所在地 北海道札幌市北区新川西

運営 会員数184名(平成30年度)、予算規模167万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 ラグビースクール、不惑世代ラグビー、女子ラグビー、フラッグフットボール、エンジョイランニング、ヨガ教室、キンボールスポーツなどを定期的に活動しています。また、ラグビー普及のイベント、タグラグビーの普及活動やフェンシング選手への支援も実施しています。

連絡先 〒001-0934 札幌市北区新川西4条4丁目6-8
TEL 011-766-6018 FAX 011-766-6019
E-Mail sasc-jimu@live.jp
URL <http://www.as-ic.co.jp/sasc/index.html>



エンジョイランニング





特別企画

ラグビーに関連するプログラムを実施するクラブ



館林ジョイスポーツクラブ ＜群馬県館林市＞



いよいよ4年に1度のラグビーワールドカップが日本で開幕します！

そこで、今回は、ラグビーに関するプログラムを行うクラブを紹介します。



1 クラブ概要

平成26年、群馬県の「スポーツプログラマー養成講習会」で出会った仲間を中心に、市体育協会の元役員やスポーツ推進委員、健康運動指導士、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者等が集まり、設立準備委員会が発足しました。

館林は群馬県でも東の先端に位置し、県のスポーツ講習会に参加するために車で2時間もかかることから、有資格指導者も少ない地域です。スポーツ団体も単一種目の団体が多く、エンジョイ志向で長く継続していくクラブがありませんでした。そこで、気軽に楽しい多種目のスポーツを、多世代の地域住民に提供をしていく「総合型地域スポーツクラブ」が必要だと考えました。準備委員会のメンバーには、ウォーキング、健康体操、ヨガやエアロビック等の指導者がいましたので、早速、健康づくりの教室を始めました。

拠点となる小学校で話をお聞きすると、運動の二極化が進み、体力がなく意欲のない子どもが増加しているとのことでした。また、共働きの保護者も多く、保護者の協力が必要となるチームではスポーツをさせたくてもできない事情があるようです。もっと気軽に体を動かすことのできる場所、子どもが自主的に体を動かす場所の必要性を感じました。

その頃、県スポーツ協会主催のACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)講習会有り、当クラブで「スポーツ大好きな子どもをつくる」教室を始めるきっかけとなりました。現在は、「チャレンジスポーツ教室」「エンジョイダンス教室」「タグラグビー教室」を実施しています。

2 トップリーグ選手が小学校訪問 タグラグビー教室開設の契機に

設立準備委員会発足当時、群馬県東毛地区にはジャパンラグビートップリーグの「パナソニック・ワイルドナイツ」の本拠地があり(現在は熊谷市)、トップリーグのラグビー選手が、小学校を訪問し「タグラグビー教室」を開催していました。タグラグビーは、「運動量が多く、男女ともにできるボールゲーム」であり、タグを使った鬼ごっこは子どもたちに大人気でした。そこで、定期的にタグラグビーを練習することができないかと考えました。

3 地元の大学附属高等学校ラグビー部つながりで 指導者と練習場を確保

指導者を探していた際に、拠点となる美園小学校のPTA会長に「子どもの初心者タグラグビーを指導していただける方を紹介してほしい」とお願いしました。同会長は、関東学園大学附属高等学校ラグビー部のご出身だったことから、同部の後輩で小学校の保護者でもある西本 與(ひとし)さんを紹介していただきました。西本コーチは、ラグビーと子どもが大好きな「やさしい赤鬼コーチ」です。時にやさしく、時に厳しく、子どもたちに愛情を持って指導していただいています。

西本コーチのおかげで、館林を拠点としジュニア育成を目的に活動する「館林ラグビースクール」との連携もでき、指導者やスクールOBも参加し指導してくれます。また、西本コーチが同校のOBであることから、学区内にある関東学園分福グラウンドを借用することが出来ました。

西本コーチは、子どもたちの年齢・体力レベルや性格等を把握し、タグラグビーの多くの知識や情報を得た上で指導してくれます。練習は、体力向上のプログラムから始まり、ハンドリング練習、タグ取りの練習、練習試合となりますが、コーチは「どうしたらトライできるかな？」と子どもたちに問いかけます。勝つための戦略を子どもたちだけで一生懸命話し合います。「自ら考えて、仲間のために行動する」。これが、ラグビー精神の指導です。



4

芝の上で楽しく安全に教室 高学年チームは大会で好成績も

最初は、小学校にチラシ配布し「無料体験教室」を開催しました。小学校のグラウンドで、小学生や幼児も集まり、楕円(だえん)形のボールを抱えて走ったりパスをしたり、保護者も一緒に楽しく参加してくれました。ところが、乾いて硬いグラウンドでは転んで擦り傷を負う子どもが多くなり困りました。西本コーチのおかげで、芝のグラウンドを借りることができ、楽しく安全に教室を開催できるようになりました。

今まで、年に数回のフェスティバルやタグラグビー大会を経験し、無理なく楽しく参加していましたが、高学年になると勝ちたい意欲も出てきました。しかし、月2回の練習では「好成績は無理かな～」と思っていました。

ところが、7月に熊谷で開催された「JCカップ関東地区記念大会」で高学年チームが準優勝！「仲間と楽しむ。しかし、試合の時は真剣・集中」をモットーに指導する西本コーチのおかげだと思います。表彰式ではラグビー元日本代表のホラニ龍コリニアシ氏(パナソニック・ワイルドナイツのコーチ)から賞品を受け取り、トップリーグの試合をスチューデント席で観戦するなど、親子ともに興奮と感激が入り交じる素敵な一日となりました。

5

保護者の声（タグラグビー教室に参加して）

「タグラグビー教室」を実施して3年10か月ですが、子どもたちは積極的に運動する元気な子どもになりました。また、保護者同士の絆も強くなり、「ファミリーとの交流」という新たな楽しみも生まれています。下記は保護者から寄せられた感想です。

- 「運動が苦手なわが子でしたが、コーチの温かく丁寧な指導のおかげで少しずつできるようになり、今では楽しくタグラグビーを続けています。私も練習に参加し、親子で運動をするこの楽しさを教えていただきました」
- 「子どもがこんなにタグラグビーを好きになるとは…。いつも教室を楽しみにしています。西本コーチや他の保護者の方たちに、たくましく育ててもらって感謝しています」
- 「ジョイスポの魅力は、家族で同じスポーツに参加できることです。家族にとって、ありがたいコミュニケーションの場となっています」

- 「外遊びも運動も苦手な子でしたが、参加することで心身ともに強くなり、運動が好きになりました。親も一緒に参加できて運動不足解消になり、親子の会話も増えました」
- 「学校や学年の違う子や、OBのお兄さん、ボランティアの保護者の方、コーチと一緒に練習したり、遊んだりすることが楽しみで参加しています」

6 タグラグビー体験イベントを計画 小学校対抗大会の開催が夢

「タグラグビー」は危険な競技と思われがちですが、親子で体験していただき、「誰もが安全に楽しみながら体力向上できるスポーツ」であることを理解していただきたいです。そのために、地域イベントで「タグラグビー体験コーナー」を計画中です。

また、小学校の体づくり運動や球技の単位として「タグラグビー」を実施していただき、小学校対抗のタグラグビー大会を開催するなど、地域で盛んなスポーツになることが夢です。

(館林ジョイスポーツクラブ クラブマネジャー 梶田万里子)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成28年2月21日設立

所在地 群馬県館林市美園小学校学区

運 営 会員数129名(令和元年6月現在)、予算規模437万円(平成31年度)

有給職員 1名

特 徴 「スポーツをととして笑顔のあふれるまちづくりを！」を基本理念として、子どもから高齢者まで、健康推進と体力増進を目標として、楽しい運動教室を行っています。また、館林の四季折々の自然の中で行うグリーンエクササイズ(ウォーキング & スロジョグ、ヨガ等)は、ストレス解消や地域住民との交流プログラムとして、毎年、多くの方が参加しています。

連絡先 〒374-0039 群馬県館林市美園町24-17 梶田方
TEL 090-2405-7924 FAX 0276-73-7254
E-Mail tate-joysports@cc9.ne.jp
URL <http://www.facebook.com/joyspo>

特別企画

地域を元気にする取り組みを行うクラブ

NPO法人ひのきスポーツクラブ ＜福島県南会津町＞

地域活性化に寄与することを目的にした公益的な事業を実施することは、地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進することにつながる可能性があります。

そこで今回は、地域を元気にする取り組みを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

少子高齢化が進み、世代を超えた顔の見える関係が薄れゆく地域に危機感を抱き、「子どもからお年寄りまでスポーツを通して『いきいきした桧沢地区』を目指す」を理念に掲げ、まだ行政主導によるクラブ設立が多かった時代に、地域内のスポーツ関係者はもとより、学校、老人クラブ、婦人会、区長等を巻き込み、文字通りの住民主体によるクラブ設立に動きました。多くの主体を巻き込んだクラブづくりに2年の歳月をかけ、平成14年に地名を使った「ひのきスポーツクラブ」は誕生しました。その当時、国内にもまだ数少ない総合型地域スポーツクラブを過疎化が進む小さな地域に設立するにあたり、その効果や必要性を広く周知することに相当な労力を使いました。それでも、設立準備段階から多種多様な主体を巻き込んだこと、一定の準備期間を経て設立したことで、クラブ誕生時から地域間・多世代交流事業や学校と連携した学校支援事業等、スポーツを超えた地域活性化事業は順調に進みました。

クラブ設立から5年が経過した平成19年には、設立時から変わりゆく地域情勢、クラブに対するニーズの変化をクラブ運営に反映するため、再び地域住民を巻き込み「桧沢地区元気計画策定ワークショップ」をスタート。1年の策定作業を経た後に「桧沢元気計画」を策定し、同時に地域区長とともに「桧沢地区元気地区宣言」を行いました。これが、地域を巻き込み元気をつくる当クラブの基盤をより強固にし、さらには地区公民館の指定管理等、様々な事業が行政から委託されるきっかけにもなりました。

2

世代・地域を超えてスポーツを楽しむ交流事業等を実施

「地域の子どもは地域の大人が育てる」という理念に基づき事業を展開

地域課題を解決するために、「地域を活性化するためのクラブ」として設立した当クラブだからこそ、設立当初から地域を元気にする事業を行うことは、クラブ最大の使命でもありました。特に住んでいる地域を超え、普段共に活動する世代を超え、一堂に会しスポーツを楽しめる世代間・地域間交流事業の開催や、将来の担い手である子どもたちに対し、スポーツや文化活動はもとより、地域の魅力に触れる野外活動を地域の大人が伝える‘ひのき型地域教育力向上事業’は最も力を入れてきた事業でもありました。当クラブには「すくすくひのきプラン」という計画があり、その中で掲げている「地域の子どもは地域の大人が育てる」という理念に基づき、同教育力向上事業を実施しています。

これらの事業に共通することは、様々な事業を通して顔の見える関係を広げていくことにあり、かつては当たり前に関わり合いに存在し機能していた共同（協働）の復活こそが私たちクラブが追い求めているものといえます。

3

「自然」と「人材」を活用した事業で地域を元気に！

地域の人材を巻き込み、子ども向けに各種イベント

今回のテーマである「地域を元気にする取り組み」の実践として、当クラブでは資源活用を重視しており、その中で「自然」と「人材」の2つの資源を活用した事業を展開しています。当クラブがある桧沢地区は、周囲を田畑や山・川に囲まれた自然豊かな田園風景が広がる地域です。その中で暮らしている子どもたちに、自然に触れ合う野外活動を提供する一方で、その活動には必ず多くの地域の大人を巻き込む工夫をしています。一例を挙げると、農業組合との共同による「棚田で虫キング決定戦！」では、その田んぼで作られたもち米を使って地元の高齢者の皆さんにお萩を作ってもらったりコラボや、地域にいる若者を事業運営に巻き込み、子どもたちにイワナのつかみ取りや川遊びを伝える「川ガキ清流バトルロワイアル」、地区全域を使い田畑を走り回る「7時間耐久鬼ごっこ」等、自然・人材という資源を活用した事業によって地域に活気を生む活動の実践に挑戦し続けています。

■ 棚田で虫キング決定戦

クラブの子どもたちが棚田に繰り出し、虫捕りを行う事業です。毎年農業組合の協力(コラボ)により実施しています。当クラブは他団体との連携、様々な人を巻き込むことを重要視していますので、先の農業組合のほか、地元のおばあちゃんにも「お萩を作って参加している子どもたちに振る舞う」という形で事業に参画していただく工夫をしています。

■ 川ガキ清流バトルロワイアル

子どもたちを川に連れて行き、思い切り遊ばせる事業です。暮らしのすぐ近くに綺麗な川、魚がたくさんいる川があるにもかかわらず、学校で禁止しているために、今の子どもたちはそんな川に行くことができません。そんな子どもたちを川に連れ出し、イワナのつかみ取りや飛び込み等をさせ、楽しませています。かつてクラブの野外活動で育った子どもが大人となって遊びのリーダーとなっています。

■ 7時間耐久鬼ごっこ

昔のように「朝から晩まで駆け回る」ことをイメージして、集落全部を使った鬼ごっこです。午前10時の開始から参加者の子どもたちは集落内の民家や田んぼ、畑等、ありとあらゆる所に逃げていきます。午後5時まで逃げ切れた者(参加者)が勝ちで、全員つかまえたら鬼の勝ちです。地域に残る若者や、かつて逃げ回った参加者の子どもが成年になり、今は鬼となって参画しています。鬼に捕まった参加者にはクラブオリジナルの「鬼T」がもらえ、同時にその「鬼T」を着て今度は鬼となって、まだ捕まっていない参加者を捕まえます。早く捕まっても最後(5時)まで楽しませる工夫をしています。



4

子どもたちの元気な声が地域に復活 →新たな人材育成という効果も

著しく進む少子高齢化は、クラブ設立以降に1小学校・1中学校を閉鎖に追い込み、地域内に多くの核家族世帯を生み、日常的にあった交流風景や子どもたちのはしゃぎ声を地域内から消しました。このような状況下でクラブが展開する元気づくり事業によって、「久しぶりに孫に会うようだ」「久しぶりに子どもたちの声が響いて賑やかだ」といった声を活動現場から多く聞かれます。また、活動に参加した子どもたちは身近にあり気付かなかった自然の魅力に触れ、その積み重ねの中で育った子どもが成年になり、今度は野外活動のリーダーになるといった新たな人材の育成にもつながっています。

農業・野外活動・民宿のコラボでグリーン・ツーリズム事業



収益効果のある野外活動に発展

このような地域資源を活用した元気づくり事業に経営の視点を取り入れ、平成17年から農業×野外活動×民宿を組み合わせたグリーン・ツーリズム事業を全国に先駆けて着手。これが足掛かりとなって、会員以外・居住者以外も参加する収益効果のある野外活動へと発展させました。同事業の実施にあたり、単なる一つのスポーツクラブが農家や民宿経営者を巻き込んだことが、成功の要因となっています。また、「農家は農業体験の提供、民宿は参加者を受け入れる」、これをクラブがマネジメントして一つの形にしたことも特徴として挙げられます。

被災地の子どもにも野外活動の場を提供

平成23年には東日本大震災が発生してしまいましたが、幸い当地域、当クラブは福島県内にあっても実被害がなかったこともあり、自然から引き離された同じ福島の子どもたちに自然の中で目いっぱい駆け回ってもらおうと、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンや福島大学と連携した「南会津冒険王」という新たな野外活動を立ち上げ、数年に渡り被災者支援活動にも取り組んできました。



5 純公益事業を継続するためにも、収益活動は不可欠

行政からの委託事業でクラブ経営の安定化を図る

地域に元気をつくる事業はクラブ経営の視点で見れば収益を生まない純公益事業といえます。この収益を生まない事業を長きにわたり安定的に継続していくには、一定の収益を生む活動を別途展開しクラブ経営の安定化を図る必要があります。当クラブでは、学校へクラブスタッフを派遣する「元気キッズ事業」や地域に多く抱える高齢者の介護予防に取り組む「介護予防コーディネートステーション事業」等、行政から多くの委託事業を受けながらクラブ経営の安定化を図っています。

今後も求められる経営力と現場のマネジメント力

企業のメセナ活動同様に、一定の収益を上げる一方で地域が求める地域に元気を生む公益的な活動を提供していく。それを実現する経営力と現場のマネジメント力が、今後も求められていくと思っています。

(NPO法人ひのきスポーツクラブ ゼネラルマネジャー 湯田 賢史)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成14年5月17日

所在地 福島県南会津郡南会津町桧沢地区

運 営 会員数名1,423人(令和元年10月現在)、予算規模1,600万円(令和元年度)

有給職員 8名

特 徴 豊かな自然に囲まれた小さな地域にある小さなクラブです。少子高齢化が進み、地域にある小・中学校が相次いで閉校になる中、地域の資源を活用し様々な活動を展開しています。
クラブハウスなし、予算なしの中、地域住民だけでつくり上げたクラブが、今や職員8人、予算規模1,600万円のクラブに成長しました。

連絡先 〒967-0023 福島県南会津郡南会津町福米沢字宮ノ前1381番地
TEL 0241-62-0724(FAX兼用)
E-mail hinokisports-m.seya@outlook.jp
URL <https://www.facebook.com/HinokiSC/>

特別企画

地域を元気にする取り組みを行うクラブ

スポーツクラブ21わかさの ＜兵庫県相生市＞

地域活性化に寄与することを目的にした公益的な事業を実施することは、地域におけるクラブの存在意義や価値を高め、クラブの自立・自律に向けた活動を促進することにつながる可能性があります。

そこで今回は、地域を元気にする取り組みを行うクラブを紹介します。

1 クラブ概要

設立背景

スポーツを通じて三世代間で交流をし、地域密着型のスポーツクラブができないかという観点からクラブ創設に動き出しました。クラブ活動を通じて、子どもたちにルールを守ることの大切さや社会のルールやマナーを体得させることを目的にしています。

クラブの理念

- ・他の機関・団体などが開催する大会等への参加
- ・会員相互の親睦を図るための交流行事の開催
- ・地域住民のスポーツ活動や地域づくりに資するボランティア活動の実施

現在までの経緯

発足当時は多種目のスポーツ、元旦登山(宝台山)、料理教室、ロボット教室等を実施していましたが、参加人数の減少によりグラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレー、野球に絞られました。

現在の活動状況

- ・グラウンドゴルフ、ゲートボールの月例大会
- ・ソフトバレー、野球
- ・どろんこフェスティバル(7月海の日の前日に開催)

2

「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域活性化

地域の特性を生かした事業ができないか検討しているときに、他の市町村で泥んこバレー大会を運営していることを知り、当クラブに持ち帰り、休耕田を活用し多種目にわたる「どろんこフェスティバル」を開催することにしました。

「親子そろって泥まみれ」をテーマに地域の活性化・会員相互の親睦を図ることを目的にしています。どろんこ遊びを通じて、子どもたちが自然の素晴らしさを体験し、地域の方々と触れ合う機会を生み出すことで、子どもから大人までが泥んこになりながら競技に参加しており、観ていても楽しいイベントになっています。

筆者である山本の役割をご紹介します。地元企業から協賛を得るため各企業を回るだけでなく、どろんこ運営委員会を開催し大会に向けてのスケジュール調整を行うとともに、資料・大会プログラムの作成、相生高校ボランティア生徒への競技運営上の役割説明など多岐な役割を担っています。また、大会に備えて草刈りや石拾いをやり、当日は審査委員として関わっています。

3

休耕田を活用し「泥んこフラッグス」等を実施

「どろんこフェスティバル」を開催するにあたって、地域の特性を生かすため、休耕田を活用することにしました。大会半年前に、耕作をしていない地域の人をお願いし、同時に水利責任者をお願いして水の確保をお願いしています。相生市の行事と競合しないように日程調整し、競技種目については5種目程度とし、朝9時から午後1時くらいまでに大会を終えるよう計画しました。メインとして、泥んこフラッグス、泥そりレース、1本橋渡り、障害物競争、しっぽとり鬼ごっこを企画しました。また選手が泥まみれになるため特設シャワーを設置しました。



大玉転がし



泥んこフラッグス

地元の幼稚園、小学校、中学校、高校、企業と連携

フェスティバルの認知度がなかったため、市内の幼稚園、小学校、中学校、高校にポスターと参加申込書を配布し、行政や市内の主な企業にポスターの掲示を依頼しました。結果として他府県市町村からも多数の人が参加してくれました。幼稚園、小学校、中学校については、普段から学校行事の美化作業等の行事に参加したり、幼稚園、小学校の評議員になったりすることで学校と連携しています。高校については、学校の方針としてボランティア活動を推進していることから、5年くらい前から協力してもらっています。

大会運営にあたりスタッフの確保は不可欠で、幼稚園の先生、小学校の先生・PTA、相生市交通安全協会若狭野支部の方、相生高校の生徒、地域有志の方々からの協力を得て、現在是一个の地域の行事として支えてもらっています。スタッフの役割は、選手召集、選手誘導、競技進行、受付、審査員、カメラマン、救護、シャワー係、見回り、司会、安全対策としての交通整理などで、今大会は56名(各回50名～60名)がスタッフとして参加しました。

プログラムの作成において、特に泥んこフラッグスの組み合わせに苦労しました。同種目は3～4人で数十メートル先の旗を取り合う勝ち上がり戦。低学年、高学年、中学生以上の3クラスに分かれて実施しますが、男女差を考慮したり、少しでも学年の低い子どもでも勝ち上がれるよう組み合わせを作成するのが大変でした。



事前の最終打合せ

地元企業から協賛金募り運営が軌道 今年で16回目の人気イベントに

運営基金ですが、初年度(平成15年度)はクラブ運営費で賄いましたが、2年目からは企業の方から「協賛金を募ってやればどうか」とのアドバイスをいただき、地元企業に協賛を依頼し大会を運営しています。おかげで第16回目の開催を今年度迎えることができました。

「どろんこフェスティバル」の関心を高めるため、競技ごとの表彰(優勝者、2位、3位)だけでなく、特別賞(どろんこ大将、ユーモア賞、審査員特別賞、アベック賞)も設けています。しっぽとり鬼ごっこについては、大人がしっぽを着け、子どもがしっぽを取って賞品と引き換える方式を採用しています。ただ、特別賞の賞品を決めるにあたって、子どもや大人が喜ぶものを選定するのに苦心しています。

大会を通じて、会員や地域の人、各団体間の親睦や連携が図れることに加え、子どもから大人まで心から喜んでくれる笑顔が素敵で、「どろんこフェスティバル」を開催して良かったと思っています。

次回開催に生かすため大会当日に反省会

大会当日に反省会を開催し、「良かったこと」「悪かったこと」を取りまとめて、次回の開催に向けての委員会で再確認し、より良い大会が開催できるようにしています。また、参加申込書のデータを基にグラフ化することで、市町村別、市内の地区別の参加者数を分析し、次回の大会に向けて取り組むようにしています。

しかし、一般アマチュアカメラマンのマナーの悪さが目立つのが大きな問題点です。イベント関係者以外の方が会場に立ち入り写真撮影したり、運営に支障をきたす行動を取るカメラマンもいます。これをどのように取り締まり、対策を取るのかが悩みの種です。イベントの公式カメラマンや報道陣には腕章の着用をお願いするようになりましたが、毎回のように問題となっています。

4 地域・クラブ・会員等への効果や影響

ボランティア活動の高校生から勇気と感動→役員の励みに

■役員・スタッフの声

- 相生高校の生徒には、活動記録として役割、設定目標、設定目標達成度、行動の積極性、仲間への協力、成長できた点などの感想を個々に提出してもらっています。次回開催に向けての大切な意見でもあり、これにより勇気と感動をもらい受け、役員一同の励みにもなっています。
- 「どろんこフェスティバル」を通じて地域・学校・各団体・企業との連携ができました。
- 地域のイベントとして定着できました。
- 当クラブの取り組みを参考にし、他の市町村でも「どろんこフェスティバル」を開催してくれています。
- 少しずつイベントの認知度が高まってきました。



しっぽとり鬼ごっこ



泥そりレース

■スタッフとして参加した高校生ボランティアの声

「僕たちが準備したりしているもので、あんなにも子どもたちが楽しそうにしてくれたことに気づき、裏方の仕事の楽しさ、そして大切さにも気付くことができました」(競技進行担当)

「最初は自分の役割をしっかりとこなせるか不安でした。しかし、大人の方がサポートしてくれたおかげでスムーズに競技を進行し運営を行うことができました。また、自らも競技に参加することで、ボランティアの楽しさと地域の温かさを知ることができました。この経験は今後の生活にとって大切なものになると思います。ボランティアを通して自分の人間性を高め、社会・地域に貢献し、多くの人たちと触れ合い、様々な経験を積んでいきたいと思いました」(競技運営担当)

「最初は会場の空気感が分からず戸惑うことも多かったのですが、先生に教えてもらったり、実際に競技に入ると場の空気を楽しんで放送することができました。レースに対する実況だったり、その場ですぐに言わないといけないことになる焦って噛んでしまったり、日本語が変になってしまったのが悔しかったです。また、私が他のボランティアの高校生に無茶振りしたにもかかわらず、それに応えてくれて、会場を沸かせたことが印象深かったです。今回、大変盛り上がった「どろんこフェスティバル」に微力ながら力添えできたのが嬉しかったです」(場内放送担当)



場内放送



高校生ボランティア



選手宣誓



1本橋渡り競走

5

「クラブ役員の高齢化」「若手への継承」が今後の課題

クラブ役員の高齢化が進み、若い人にいかに引継ぎをしていくかが課題です。今後、地域に愛される活動を続け、今まで以上に積極的に地域行事に参加し親睦と連携を図っていきたいと考えております。また、子どもたちには、より一層スポーツに関心を持ってもらいたいです。

(スポーツクラブ21わかさの 顧問 山本広和)

クラブプロフィール

設立年月日 平成14年3月31日

所在地 兵庫県相生市若狭野町八洞185

運営 会員数52名(平成31年4月1日現在)、予算規模305万円(平成30年度)

有給職員 0名

特徴 若狭野小学校区は相生市の西部に位置し、国道2号線とJR山陽本線を挟んで東西に広がる田園に囲まれた緑豊かな農村地帯です。かけがえのない自然と地域の方々の暖かい思いやりが常に次代を担う子どもたちに向けられています。三世代交流を図りながら体力を保持・増進するとともに、相互の親睦を図り、地域の社会の連携と明るく豊かな生活の実現に資することを目的とし、学校・地域行事に積極的に参加しています。

連絡先 TEL 090-1444-4578(山本広和)
E-Mail hirokazu.yamamoto@leto.eonet.ne.jp (山本広和)

特別企画

サイクルスポーツを実施するクラブ

大かえで倶楽部 ＜長野県北安曇郡池田町＞

近年、全国的にサイクルイベントや自転車レースが開催され、自転車のブームが続いています。また、国土交通省が平成30年6月に策定した自転車活用推進計画では、総合型クラブにおける自転車競技に関する取り組みが記載されるなど、総合型クラブの活動が注目されています。そこで今回は、サイクルスポーツを実施するクラブの取り組みを紹介します。

マウンテンバイク教室 チーム名＝「スプロケットロケッツ」



1 クラブ概要

平成23年から総合型クラブの設置を行政主導で検討。平成24年、25年で設立準備を行い、26年度より大かえで倶楽部としての活動をスタートしました。

「だれでも・どこでも・いつでも・いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を整え、「人を元気に、地域を元気にする」地域コミュニティ形成の一端を担い、健康で豊かな暮らしの実現に貢献するというのがクラブ理念で、どんな年代でもずっとスポーツを楽しんでいけるよう、様々な生涯スポーツのプログラムを組んでいます。スポーツ振興くじと町からの助成を受け、毎年新しい企画を取り入れて参加者を増やしています。

2

バイククラブの中学英語先生（カナダ人）が ジュニア向け教室を提案

もともと、池田町には地域の里山でマウンテンバイクのコースの整備や保全を目的とした自転車愛好者たちの集まり「池田マウンテンバイククラブ」がありました。そのメンバーの一人で、町の中学校のALTの先生が、ジュニア向けの教室をつくりたいと相談してきたことが、教室開催のきっかけです。カナダ人のその先生は、年中同じ仲間で同じスポーツを行う日本の部活動のやり方に懸念を抱いており、冬場に各部活の壁を取り払い、体力づくりのトレーニングを企画したりしている方でした。人生をよりアクティブに楽しむというのがマウンテンバイクの教室のテーマです。この教室は平成30年度から始めて、本年度で2年目になります。



3

地元中学生を対象に、4～10月に週2回練習

現在クラブでは、地元の中学生を対象にマウンテンバイクの教室（チーム名：スプロケットロケッツ）を開いています。ALTの先生に指導をしていただき、4月～10月末まで、月曜日と水曜日の放課後に週2回の練習が活動の主です。初年度は5名、2年目の今年は7名の生徒が参加しています。生徒たちは中学校の部活動には所属していませんが、他のスポーツもやりながら、マウンテンバイクも楽しんでいる生徒も多くいます。自転車は各自が保有しています。

学校や町、地域など多方面からの協力を得て活動

開催するにあたり、マウンテンバイクでの登下校を学校側に許可してもらい、町と相談して練習場所として河川敷にコースを確保しました。その費用は、クラブも一部負担しましたが、大きな財源は観光協会が県の補助金を活用して用意したものです。地元の事業者に重機を出してもらい、練習用のコースを造るなど、クラブだけでなく、行政、教育委員会、地域の力など、多方面から協力をいただき活動しています。

教室では交通ルールの確認や自転車のメンテナンスなど基本的なことから、自転車のスキルアップ練習やトレイルライド、雨の日には体カトレーニングや他のスポーツで身体づくりをしています。また、練習にバイクポロを取り入れるなど、ゲームを楽しみながら、テクニックを磨く工夫をしています。

転倒・ケガ防止のため、安全確保に十分配慮

マウンテンバイクは、不安定な道を走るスポーツですので、転倒やケガは十分想定されます。活動時は必ず大人が同行することや、個人で練習するときも必ず複数名で山に入るように徹底し、SNSなどを活用し連絡を取れる態勢にしています。また、救急セットを携帯して、応急処置が常にできる準備をしています。そのほか、事前に交通ルールを確認しておくことや、転び方の練習などもしています。

今年はお揃いのジャージを作り、シマノバイカーズフェスティバルに出場しました。台風が迫る中、雨天での開催でしたが、みんな泥だらけで4時間の耐久レースを完走し、貴重な経験と思い出になりました。また、ヘッドライトをつけ、夜にトレイルを走るナイトライドや、半日かけての自転車登山など、「こんなこともできた！」という達成感を実感できる企画もしています。マウンテンバイクの教室では、競技で勝つというよりも、スポーツ自体を楽しみ、たくさんの経験をすることに重きを置いて日々の指導をしています。



4

中学生の運動のあり方に一石投じる 「中学生の運動≠部活動」

「中学生の運動≠部活動」という一つの例をつくることができました。また、部活動では大会での勝利を目標にしていることが多いですが、必ずしもチャンピオンシップだけがスポーツのすべてではないことを成長期から感覚として知っていることが、将来スポーツをする上で大きな財産になると思います。

満足度・改善点を知るため毎年アンケートを実施

毎年、クラブ会員向けに各教室の満足度や、改善点を知るためにアンケートを行っています。教室の内容や日程、指導についての満足度と、記述式で各教室とクラブ運営に関する意見を集め、今後に生かすようにしています。

●マウンテンバイク教室に関する保護者からのアンケート回答内容

- 数針縫うけがをした息子でしたが、親の心配もよそに、その後の自転車に恐怖心もなく、活動を楽しんでいます。その後の先生方のケアやご指導のおかげと感謝しています。また、マウンテンバイクでの通学や運動着での通学を許可していただいたりと、学校側の配慮にも嬉しく思います。今後は頑張っている子どもたちに目標を与えてあげたいので、大会等にも積極的にさせたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。
- 体力もしっかりつき、通学もほとんどバイクで通い、子どもには生涯続けてほしいです。バイクといういい出会いができました。



5

自転車を通してクラブの存在と理念をアピール

サイクルスポーツは公道を走ることも多いですが、ほとんどの道が車のための設計で、危険箇所が多いのが現状です。歩行者、自転車、車—いずれも交通ルールの確認や、お互いの立場を認知することが重要になります。

スポーツバイクはイニシャルコストが高額になり、他のスポーツに比べてエントリーがしづらい傾向もありますが、一人でもできることや、移動手段としての活用、健康に対しての効果を考えると、非常に優位性のあるスポーツの一つだと思います。

子どもが環境を担う存在に→自転車に理解のある町に

健康やグルメ等と結びつけたサイクルスポーツの企画をするのもいいかと思います。クラブでは、冬場のオフシーズンに生徒たちとコースの整備なども学びながら行っています。それは、その子たちが大人になっても地域で自転車を楽しみながら環境づくりを担う存在になってほしい—という狙いです。町の中に自転車を楽しむ人や通勤通学を自転車でする人が増えていき、結果としてより自転車に理解のある町になってくれればと思います。

本年度で、スポーツ振興くじの助成が終了し、金銭的にも、より運営体制の自主化が求められます。サイクルスポーツは人目にふれる機会の多いスポーツですので、自転車を媒介してクラブの存在と理念をアピールしていきたいです。

(大かえで倶楽部 クラブマネジャー兼事務局長 川田 諭)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成26年3月2日

所在地 長野県北安曇郡池田町

運営 会員数221名(令和元年12月現在)、予算規模631万円(令和元年度)

有給職員 1名

特徴 「だれでも・どこでも・いつでも・いつまでも」をコンセプトにヨガや親子運動教室、ボルダリングなど、およそ20種目の通年教室を開催しています。
周りを山に囲まれている地域の特徴を活かし、トレッキングやマウンテンバイクの教室も行っています。

連絡先 〒399-8601 長野県北安曇郡池田町大字池田3210-4 池田町総合体育館内
TEL 0261-62-7654 FAX 0261-62-9643
E-Mail o-kaede@town.ikedanagano.jp
URL <http://www.ikedamachi.net/0000000201.html>

特別企画

サイクルスポーツを実施するクラブ



Pegasusクラブ
＜島根県益田市＞



近年、全国的にサイクルイベントや自転車レースが開催され、自転車のブームが続いています。また、国土交通省が平成30年6月に策定した自転車活用推進計画では、総合型クラブにおける自転車競技に関する取り組みが記載されるなど、総合型クラブの活動が注目されています。そこで今回は、サイクルスポーツを実施するクラブの取り組みを紹介します。

「自分が楽しむ、みんなで楽しむ、みんなで見守る！」クラブ

映画「高津川」にもなった自然を満喫できる田舎町



1

クラブ概要

活動種目は、市内で約3000件のアンケートを取り、結果を参考に新種目に着手。現在、バイク(自転車)をはじめソフトテニス・テニス・バドミントン・卓球・ヨガ・カヤック・ハイキング(山登り)・ボルダリング・パソコン・絵画・バルーンアートの12種目で活動しています。会員は、参加費1回200円～500円(種目ごとに設定)を支払えば全種目に自由に参加でき、それぞれ楽しんでいます。さらに、未参加の人も気軽に参加し継続しやすくなるようにと、どの種目も「ゆる～い」形で活動中です。

また、映画「高津川」の舞台であり、日本で唯一ダムのない一級河川である高津川付近の河川敷約2000㎡を、誰でも遊べる環境にとボランティアで整備していることが認められ、国土交通省より河川協力団体として指定されました。



2 クラブ設立経緯

クラブの前身であるソフトテニス主体の「ペガサステニスクラブ」では、20年前から「運営継承」が課題となっていました。そんな時、他団体の設立準備作業に関わる機会があり、「総合型地域スポーツクラブ」を知りました。もともと多種目ということを除けば、誰でも参加できるように入会制限を決めず、総合型クラブと変わらぬ概念で長年運営していました。クラブマネージャーが有償で運営に携わる仕組みづくりをすれば、課題解決ができるのではないかと検討開始。5年前より少しずつ種目を拡げ、現実的に発生する課題を解決し、ある程度の形が見えてきたので正式に平成30年10月設立となりました。大人がルールやマナーを守りながら元気で楽しく活動すれば、子どももルールやマナーを守りながら元気で楽しく活動できると考えています。

3 3年前から益田市バージョンの「高津川チャレンジスロン」開催

「カヤック＋バイク(自転車)＋ハイク(山登り)」

バイク(自転車)の取り組みについては、まず、副会長が“カヤック＋バイク＋ハイク”を一気に楽しむ「SEA TO SUMMIT」にハマリ、全国各地のイベントに参加していました。益田市でも以前開催されていましたが、残念ながら現在は開催されていない状況です。そこで「益田市でも開催したい！」という思いから、3年前、益田市バージョンとして初心者でも楽しめるカヤック＋バイク＋ハイクイベント「高津川チャレンジスロン」をスタートしました。

2019年「高津川チャレンジアスロン」の実施概要

大会日程 4月13日(土) 前夜祭 17時30分～21時00分
 4月14日(日) 高津川チャレンジアスロン

実施種目 ①カヤック＝往復約5キロ 7時30分スタート
 ②バイク(自転車)＝往復約25.2キロ 9時30分スタート
 ③ハイク(山登り)＝往復約3.2キロ 11時00分スタート

大会規則 単種目、複数種目の参加を自由に選択可能

参加形態 スーパーチャレンジコース＝①＋②＋③
 チャレンジコース＝A(①＋②)、B(②＋③)、C(②)
 エンジョイコース＝A(①＋③)、B(①)、C(③)

参加条件 中学生以下は保護者が同時参加



さらに、益田市は、景色を楽しみながら田舎道を120kmバイクで走る「I・NA・KAライド」の実施や、五輪バイク競技のキャンプ地としてアイルランド選手の受け入れ、平成30年には「第87回全国自転車競技選手権大会ロード・レース」の開催などサイクルスポーツに市全体で力を入れています。クラブ全体ではないものの、副会長およびクラブのサイクル仲間は参加や支援で、積極的に関わっています。



4 試行錯誤の末、初心者も参加しやすいイベントに発展

2017年には、“あの綺麗な高津川でもう一度”の声が上がり、「高津川・日晩山K.B.H」を企画しました。遠く岐阜、京都、大阪の参加者も含め、市内のバイク仲間27名で開催しました。クラブ設立に向け活動が充実してきた2018年には、「高津川チャレンジアスロン」と名前を変更。会場を同市内の日晩山へ移し、対象者を初心者からベテランまでとし5月の連休に行いました。参加者24名中12名がバイクで参加、6名の初心者の参加もありました。2019年には、連休中は参加しにくいとの意見から4月中旬に実施。山も少し低い大道山に変更し、さらに初心者が参加しやすい形としました。参加者36名中16名がバイクで参加、60歳代5名と小学2年生も最後まで登り切りました。

なお、準備段階では、コース設定や安全確保のため、国土交通省と高津川漁協と事前に協議したほか、市や警察署、消防署など関係機関に計画を報告しました。

●各ステージの留意事項

【カヤック】

- 事前にカヤック体験会を開き安全管理について指導するとともに、基本動作を習得してもらい、参加者は安全にパドリングできるようになりました。
- 河川で流れの少ない場所で水深も浅いところを開催場所としました。
- コースは、スタート場所より上流に漕ぎ出し、転覆事故があってもスタート地点から確認でき、回収もしやすい様に設定しました。
- ゴールに帰った者からカヤック装備を片付け、全員がゴール後にバイクステージに移りました。

【バイク(自転車)】

- 交通量が少なく急なアップダウンの無いコースを選びました。
- 走行中は地元のサイクルクラブに所属するメンバーを、先導・中間・最後尾と配置し、安全確認とコース誘導を行いました。
- コース途中に休憩場所を2か所設定、体調を確認するなど安全管理に努めました。
- 各人の高額なバイクをハイクステージに置くことができないので、バイクゴール地点に保管場所を設置し、見張り員を配置しました。
- 全員がゴール後ハイクステージに移りました。

【ハイク(山登り)】

- 出発前に装備品(水分、補給食、昼食、救急用品)の確認を行いました。
- 途中休憩場所を設け、体調確認と人数確認を行いました。
- 下山前に靴ひもの締め付けを確認し、足への負担を軽減するよう指導しました。

【帰路】

- 登頂後に昼食をとってから下山しました。
- バイクでスタート地点まで帰りますが、参加者が疲労している可能性がある上、下り坂でスピードも出やすいので、集団走行とし安全確認を行いました。
- ゴール後は達成感もあり、みんなで次回の開催と参加を誓い合いました。

5

前夜祭の実施で参加者間の交流を図る

“カヤック＋バイク＋ハイク”の企画を始めてまだ3年目ですが、地元自治会、益田市観光協会、サイクリングサークルとのコラボ企画も始まっており、これからも多くの参加者が増えることを期待しています。また、この企画では前夜祭を行い、参加者間の交流も深めることで、「また来年！」につながっています。

また、クラブでは活動の核として“交流”を大切にしています。クラブの12種目間で、それ以前は交流が多くありませんでしたが、チャレンジアスロンをはじめ、誰もが参加できるイベントやボランティア活動を通し、徐々にクラブ内で交流ができ、活動の原動力となりつつあります。

益田市内では、ショップによるサイクリング、サイクリングサークル、企業内でのチーム・個人や数名でのサイクリング等、自転車だけを使ったライド、ポタリング、サイクリングは盛んに行われています。一方、クラブでは、高津川流域の自然全てを体感できるカヤック、バイク、ハイクを、初心者からベテランまで気軽にできるスポーツとして、機会をつくり、環境を整備しているところです。今後は、両者のメリットを生かしながら、益田市外からも多くの参加者が得られるよう益田市観光交流課や益田市観光協会とも連携して開催して行きたいと思っています。また、各エイドで地元の人たちとの交流もより深めていきたいです。

運営にあたっては、安全には十分注意しています。しかし、河川、道路、登山道、山頂と活動エリアが広い上、参加者が多くなれば今以上の誘導員、見守り隊などの人員確保と統率が必要になります。今後は、参加状況に合わせ、大会本部を設置し、緊急時の連絡態勢を整備し安全確保に努めたいと考えています。

(Pegasusクラブ クラブマネージャー兼会長 大達 隆人)

クラブプロフィール

設立年月日 平成30年10月5日

所在地 島根県益田市

運営 会員数133名(令和元年11月現在)、予算規模250万円(令和元年度)

有給職員 2名

特徴

- ・「自分が楽しむ、みんなで楽しむ、みんなで見守る」
- ・益田市(人口46300人)を中心に全国から会員や参加者を受け入れています。
- ・クラブ内のサークル活動・スクール運営に当たっては、基本的に助成を受けずに参加料だけで運営しています。
- ・活動希望種目は、少人数でも運営が成り立てばスタートして拡げていきます。
- ・小学生から高齢者までが一緒に関わり楽しむサークル・スクールを目指して活動中です。

連絡先

〒698-0033 島根県益田市元町3-16

TEL 090-5370-6110 FAX 0856-22-3832

E-Mail pegasus.stc@gmail.com

URL <https://pegasus-stc.jimdofree.com>